

リサーチセンター進捗状況報告書

センター名	未来ビークルリサーチセンター
センター長名	福本 昌宏
設置の時期	平成 16年 12月 1日
報告書作成日	平成 19年 8月 8日

1. 設置の目的

学内において、従来にない分野横断的な連携体制を機能させることにより、未来の自動車および自動車社会に関する統合学術研究拠点を構築する。これと地域自治体等との連携による連携融合事業を実施し、近隣地域、自治体等の有する社会的問題への対処を通じた地域貢献、ならびに近隣企業への技術移転を通じた地域振興を目指す。

2. 設置後の研究成果

- ・平成17年度以来毎年度、学内公募により選定した連携融合プロジェクト数件を実施している。各年度終了後、これらプロジェクトの成果報告会を公開にて実施した。
- ・平成19年7月時点で、特許3件、講演11件、講演会16件、見学会5件、交流会18件、講習会1件、共同研究1件、研究会6件、論文74報の成果が報告された。
- ・県内での連携体制構築を目指し、名古屋大学、名城大学の当該分野に関わる中核的研究者と学術交流した。また愛知県警との連携体制構築に向けて交渉中である。さらに、米国ウエイン州立大学ならびに中国上海同済大学との国際連携体制を構築した。
- ・センターコア研究の一つである異材接合技術に関し、平成19年度経済産業省地域新生コンソーシアム研究開発事業に採択された。

3. 今後の研究計画及び期待される効果

これまでの事業活動を通しセンターでは、衝突予防安全、先端異材接合、自動車用電池、の3つの技術開発をコアテーマと位置づけている。今後は引き続きこれらテーマを核とし、地域貢献、地域振興に向けた事業を展開する。については、当センターが核となり、県内他大学、愛知県警等との連携の下、衝突予防安全に向けた学術的取組みを推進する。その実現は、地域社会の安全に対し大いなる貢献が見込まれる。については、自動車軽量化技術ならびに高特性電池の開発を行い、関連する域内企業群への技術移転を目指す。その実現は、地域振興として貢献するところ大である。一方、ウエイン州立大学、ならびに上海同済大学との国際連携を推進し、2010年上海万博での合同出展を目指す。本件は本学のプレゼンス向上に大いに寄与するものである。

この進捗状況報告書は、評価の後公表します。